

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	40204
----------	-------

1. 開設大学	福山大学 薬学部	開講場所 (キャンパス・施設)	本学
2. 科目名	ノーベル賞をとった薬の物語 ―鎮痛薬が大腸がんの予防薬になるまで―		
	学問分野	番 号	名 称
3. 担当教員	町支臣成、井上敦子、長崎信浩、佐藤英治 (世話人：岡村信幸) 薬学部		
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	平成 29 年 8 月 7 日 (月) 10 時 00 分 ~ 15 時 00 分 (50 分×4 回)		
個別開講日	1 回目 8/7	2 回目 /	3 回目 /
	7 回目 /	8 回目 /	9 回目 /
5. 募集定員	40 人		
6. 科目内容・ 授業計画	<p>【概略】 紀元前 400 年頃からセイヨウシロヤナギの樹皮には熱や痛みを軽減する作用のあることが知られていた。19 世紀になってヤナギの成分であるサリシンを分解して得られたサリチル酸が解熱鎮痛薬として使われるようになった。しかしサリチル酸には激しい胃痛を起こすため、副作用の少ない構造のアスピリン (アセチルサリチル酸) が開発された。アスピリンの作用メカニズムは 80 年以上も後になってジョン・ベインらによって解明され、その功績はノーベル生理医学賞として高く評価されている。現在ではアスピリンは解熱鎮痛だけでなく、少量で心筋梗塞や脳血管障害などの血栓塞栓形成の予防に用いられている。昨年から、アスピリンは大腸がんの予防に向けた臨床試験が開始され、大腸がんの有効な予防薬として期待されている。そこで、アスピリンを例に、医薬品開発から薬物治療までを分かりやすく学ぶとともに、薬剤師の業務を体験し、薬剤師の役割について理解を深める。</p> <p>10 : 00~10 : 50 クスリはどのようにして開発されるのか? ―アスピリンの誕生秘話を通して― (担当 : 町支)</p> <p>11 : 00~11 : 50 アスピリンを飲むとなぜ頭痛がおさまるか? (担当 : 井上)</p> <p>13 : 00~13 : 50 クスリとしてアスピリンを使用する ―治療効果と副作用― (担当 : 長崎)</p> <p>14 : 00~15 : 00 さあ、それでは患者さん用のアスピリンを調剤して患者さんに渡してみよう [実習] (担当 : 佐藤)</p>		
7. 受講料	無料		
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし		
9. 開講条件※1 あり	① 最少開講人数 (5 人) 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日 6 月末		
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと 集合場所 : 薬学部 34 号館医療薬学教育センター1 階ロビー		
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。		

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。